プラセンタの投与方法

プラセンタ（ラエンネック）を臀部に皮下注射します。
週１回をベースに、症状などに合わせて適宜増減します。

主な副作用

まれに（発現率３％未満）注射部位の疫病、過敏症（発疹・発熱・掻痺感など）、
注射部位の発赤・硬結、頭痛、肝機能障害（AST, ALT上昇など）が報告されています。
また、ヒト組織由来のタンパク・アミノ酸などを含有する製剤であるため
ショックを起こすことがあります。プラセンタ治療を受けてこのような症状が出た場合、
あるいは不安に思われた場合は、必ず担当医師にご相談下さい。

安全性

ラエンネックの原料となるヒトプラセンタは、製造会社が直接契約した日本国内の産婦人科から
提供されたものを使用します。製品の安全性を確保する為に、以下の安全対策を講じております。

1. 原料提供者のスクリーニング（医療機関での検査・確認）
2. 受入試験
3. ウイルス不活化処理
   ・有機溶剤処理　・酸処理
   ・高圧蒸気滅菌処理
   （最終滅菌 121℃、20 分間）
4. 製品試験

1. 原料提供者について医師による海外渡航歴やウイルス等感染症のスクリーニングを実施
2. 受入試験でＢ型肝炎、Ｃ型肝炎及びエイズ（後天性免疫不全症候群）のウイルス検査に適合した原料を使用
3. 製造工程では、科学的に証明された種々のウイルス不活化処理を実施
4. 最終製品についてＢ型肝炎、Ｃ型肝炎、エイズに加え、成人Ｔ細胞白血病及びリンゴ病のウイルス検査で陰性であることを確認

プラセンタ注射製剤はヒトの胎盤組織から作られますので、理論上は感染の危険性は
ゼロではありませんが、Ｂ型肝炎・Ｃ型肝炎・HIV などの各種ウィルスのチェックや、
酵素処理や高圧滅菌によりウィルスを完全に不活化させています。
日本でプラセンタ注射の治療が開始されて以来、クロイツフェルト・ヤコブ病を含めて
感染症の報告は一例もありません。

献血の制限

国内で一例も感染症の報告はありませんが、厚生省が「ヒトの血液や組織を使用した治療を受けた
ものは、理論上感染の危険性がゼロではないため、献血ができない。」と一律に決めたこともあり、
プラセンタ注射を一度でも受けると献血ができなくなってしまいます。
これはプラセンタ製剤だけではなく、ヒトアルブミンや輸血を受けた方なども同様に制限されます。

やまぐち呼吸器内科・皮膚科クリニック
YAMAGUCHI
☎045-364-8081

～プラセンタ（ラエンネック）治療同意書～

私はプラセンタ（ラエンネック）に関する説明を受けた上で、十分に理解致しましたので、
プラセンタ（ラエンネック）治療を受けることに同意いたします。

同意年月日：　　年　　月　　日

患者氏名